

会員事業所景況実態調査令和4年7月～令和4年9月分集計結果
調査依頼数:560 回答数 84 回答割合:15%

令和4年度2回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した7月～9月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	18	29	36	83	▲ 21.7	▲ 13.3	▲8.4
	採算	13	33	37	83	▲ 28.9	▲ 30.7	1.8
	仕入単価	0	16	65	81	▲ 80.2	▲ 75.7	▲4.6
	従業員	26	52	3	81	28.4	21.3	7.1
	業況	10	35	37	82	▲ 32.9	▲ 29.3	▲3.6
	資金繰り	4	62	17	83	▲ 15.7	▲ 23.0	7.3
建設・建築業	売上	1	10	7	18	▲ 33.3	12.5	▲45.8
	採算		11	7	18	▲ 38.9	▲ 18.8	▲20.1
	仕入単価		5	13	18	▲ 72.2	▲ 87.5	15.3
	従業員	10	7		17	58.8	25.0	33.8
	業況		11	6	17	▲ 35.3	▲ 6.3	▲29.0
	資金繰り		16	2	18	▲ 11.1	▲ 18.8	7.6
製造業	売上	1	2	4	7	▲ 42.9	▲ 30.8	▲12.1
	採算	1	1	5	7	▲ 57.1	▲ 53.8	▲3.3
	仕入単価			7	7	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0
	従業員	1	4	2	7	▲ 14.3	▲ 7.7	▲6.6
	業況	1	3	3	7	▲ 28.6	▲ 53.8	25.3
	資金繰り		5	2	7	▲ 28.6	▲ 46.2	17.6
卸・小売業	売上	4	2	7	13	▲ 23.1	▲ 45.5	22.4
	採算	2	4	7	13	▲ 38.5	▲ 45.5	7.0
	仕入単価		3	10	13	▲ 76.9	▲ 81.8	4.9
	従業員	4	8	1	13	23.1	27.3	▲4.2
	業況	2	3	8	13	▲ 46.2	▲ 45.5	▲0.7
	資金繰り		8	5	13	▲ 38.5	▲ 36.4	▲2.1
飲食・サービス業	売上	4	9	6	19	▲ 10.5	4.2	▲14.7
	採算	4	10	5	19	▲ 5.3	▲ 12.5	7.2
	仕入単価		5	14	19	▲ 73.7	▲ 62.5	▲11.2
	従業員	4	15		19	21.1	25.0	▲3.9
	業況	1	9	9	19	▲ 42.1	▲ 16.7	▲25.4
	資金繰り	2	14	3	19	▲ 5.3	▲ 4.2	▲1.1
不動産・その他	売上	8	6	12	26	▲ 15.4	▲ 36.4	21.0
	採算	6	7	13	26	▲ 26.9	▲ 45.5	18.5
	仕入単価		3	21	24	▲ 87.5	▲ 54.5	▲33.0
	従業員	7	18		25	28.0	36.4	▲8.4
	業況	6	9	11	26	▲ 19.2	▲ 45.5	26.2
	資金繰り	2	19	5	26	▲ 11.5	▲ 30.0	18.5

(全体)

採算、資金繰りは前回より改善し、売上、仕入単価、従業員、業況は悪化しているが、DI値はいずれも10ポイント未満の増減である。特に仕入のDI値は▲80ポイント以上となり、さらに厳しさは続いている。従業員では、若干ではあるが人手不足感が強まっている。

(建設・建築業)

仕入単価、資金繰り以外は前回より悪化しており、特に売上は40ポイント以上、業況は30ポイント近く悪化している。仕入単価は若干改善しているが、依然としてDI値は▲70ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。従業員では、前回より大幅に人手不足感が強まり、DI値も60ポイント近くまで悪化している。

(製造業)

売上、採算以外は前回よりも改善しており、業況は20ポイント以上と大きく改善している。仕入単価は前回から変わらないが、すべての事業者が悪化と回答しDI値は▲100ポイントとなっている。一方、売上は前回より10ポイント以上悪化しDI値も▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなっている。採算は若干の悪化であるが、DI値は▲50ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。

(卸・小売業)

売上、採算、仕入単価、従業員では前回よりも改善しており、特に売上は40ポイント以上改善し、DI値も▲20ポイント台まで回復している。仕入単価は若干改善しているが、依然としてDI値は▲70ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。一方、業況、資金繰りでは、前回より若干悪化している程度だが、DI値は業況▲40ポイント以上、資金繰り▲40ポイント近くとマイナスポイントが高くなっている。

(飲食・サービス業)

採算、従業員以外は前回より悪化しており、特に業況は20ポイント以上悪化し、DI値も▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなっている。また仕入単価のDI値は依然として▲70ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。一方、採算では前回より若干の改善ではあるものの、DI値は▲10ポイント未満まで改善している。

(不動産・その他)

仕入単価以外は前回より改善しており、特に売上、業況では20ポイント以上改善している。一方、仕入単価は30ポイント以上悪化し、DI値も▲80ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。

【質問 A】 9月と比較した10月～12月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	19	31	33	83	▲ 16.9	▲21.3	4.5
	採算	11	38	34	83	▲ 27.7	▲33.8	6.1
	仕入単価	0	14	67	81	▲ 82.7	▲73.0	▲9.7
	従業員	28	51	2	81	32.1	28.4	3.7
	業況	11	37	34	82	▲ 28.0	▲37.3	9.3
	資金繰り	4	58	21	83	▲ 20.5	▲28.8	8.3
建設・建築業	売上	2	9	7	18	▲ 27.8	▲18.8	▲9.0
	採算	1	10	7	18	▲ 33.3	▲43.8	10.4
	仕入単価		4	14	18	▲ 77.8	▲81.3	3.5
	従業員	11	6		17	64.7	43.8	21.0
	業況	1	11	5	17	▲ 23.5	▲37.5	14.0
	資金繰り	1	16	1	18	0.0	▲25.0	25.0
製造業	売上	2	2	3	7	▲ 14.3	▲23.1	8.8
	採算	2	1	4	7	▲ 28.6	▲15.4	▲13.2
	仕入単価		1	6	7	▲ 85.7	▲100.0	14.3
	従業員	1	4	2	7	▲ 14.3	8.3	▲22.6
	業況	2	2	3	7	▲ 14.3	▲38.5	24.2
	資金繰り		4	3	7	▲ 42.9	▲33.3	▲9.5
卸・小売業	売上	5	3	5	13	0.0	▲72.7	72.7
	採算	2	6	5	13	▲ 23.1	▲72.7	49.7
	仕入単価			13	13	▲ 100.0	▲90.9	▲9.1
	従業員	4	9		13	30.8	27.3	3.5
	業況	2	6	5	13	▲ 23.1	▲63.6	40.6
	資金繰り		8	5	13	▲ 38.5	▲54.5	16.1
飲食・サービス業	売上	3	9	7	19	▲ 21.1	4.2	▲25.2
	採算	2	12	5	19	▲ 15.8	▲16.7	0.9
	仕入単価		7	12	19	▲ 63.2	▲62.5	▲0.7
	従業員	6	13		19	31.6	29.2	2.4
	業況	2	8	9	19	▲ 36.8	▲20.8	▲16.0
	資金繰り	2	12	5	19	▲ 15.8	▲12.5	▲3.3
不動産・その他	売上	7	8	11	26	▲ 15.4	▲27.3	11.9
	採算	4	9	13	26	▲ 34.6	▲40.0	5.4
	仕入単価		2	22	24	▲ 91.7	▲36.4	▲55.3
	従業員	6	19		25	24.0	27.3	▲3.3
	業況	4	10	12	26	▲ 30.8	▲45.5	14.7
	資金繰り	1	18	7	26	▲ 23.1	▲40.0	16.9

(全体)

仕入単価、従業員以外は前回より若干ではあるが、改善する見通しである。一方、仕入単価、有業員は前回より若干ではあるが悪化となり仕入単価のDI値は▲80ポイント以上とマイナスポイントがさらに高くなる見通しである。従業員は若干人手不足感が強まる見通しである。

(建設・建築業)

売上、従業員以外は前回より改善し、特に資金繰りは20ポイント以上改善しDI値はプラスマイナス0まで回復する見通しである。仕入単価は依然としてDI値が▲70ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しである。一方、従業員は20ポイント以上悪化し、DI値も▲60ポイント以上と人手不足感が非常に強くなる見通しである。

(製造業)

採算・資金繰り以外は前回より改善し、特に業況は20ポイント以上改善しDI値も▲10ポイント台まで回復する見通しである。また、仕入単価は依然としてDI値が▲80ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しである。一方、従業員では20ポイント以上悪化し人手不足感が強まる見通しである。資金繰りでは若干悪化する程度だが、DI値は▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しである。

(卸・小売業)

仕入単価・従業員以外は前回より改善し、特に売上が70ポイント以上、採算が50ポイント近く、業況が40ポイント以上と大きく改善する見通しである。一方、仕入単価はすべての事業者が悪化と回答し、DI値は▲100ポイントとなる見通しである。

(飲食・サービス業)

採算以外は前回より悪化し、特に売上は20ポイント以上と大きく悪化する見通しである。仕入単価は若干の悪化だが、依然としてDI値はポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しである。

(不動産・その他)

仕入単価以外は前回より改善する見通しである。一方、仕入単価は50ポイント以上悪化しDI値も▲90ポイントとマイナスポイントが非常に高くなる見通しである。

